

思想家にして精神科医、活動家。ガタリとは何者であったか？ ガタリの生涯とその思想のアクチュアリティを明らかにする批評的入門書！

ギャリー・ジェノスコ Gary Genosko [著] / 杉村昌昭 Masaaki Sugimura 松田正貴 Masataka Matsuda [訳]

Félix Guattari

フェリックス・ガタリ 危機の世紀を予見した思想家

叢書・ユニベルシタス1080 | 四六判 | 348ページ | 上製 | 定価(本体3,500円+税) | ISBN978-4-588-01080-4 C1310 | 2018年06月刊行



●あとがきより

本書は単にガタリをパラフレーズしたものではなく、ガタリを参照しながら、そこにジェノスコが自らの現代社会への関心を重ね合わせることによって、ガタリをよりリアルに浮かび上がらせた独自の「ガタリ論」であるといえるだろう。……ややもすると見えにくいガタリにおける哲学思想的次元と政治実践的次元とをつなぐ接続線を明確に可視化しようとしたところにジェノスコの比類のない特異性を見ることが出来る。

杉村昌昭

●略歴

ギャリー・ジェノスコ(Gary Genosko)

1959年生まれ。ヨーク大学(カナダ)にて博士号取得。オンタリオ工科大学社会学・人文学部教授。メディア理論・コミュニケーション理論専攻。英語圏を代表するドゥルーズ/ガタリ研究者であり、マクルーハン、ボードリヤールについての著書もある。

杉村昌昭(すぎむら・まさあき)

1945年生まれ。龍谷大学名誉教授。フランス文学・現代思想専攻。著書に『資本主義と横断性』(インパクト出版会),『分裂共生論』(人文書院),訳書にアザン『パリ大全』(以文社),テヴォー『アール・ブリュット』(人文書院),ペラルディ(ピフォ)『大量殺人の“ダークヒーロー”』(作品社),ガタリ『分子革命』『精神分析と横断性』(共訳)『精神と記号』,ドゥルーズ/ガタリ『政治と精神分析』(以上、法政大学出版局)などがある。

松田正貴(まつだ・まさたか)

1974年生まれ。大阪電気通信大学講師。20世紀イギリス文学専攻。編書に『ダダイストの睡眠』(高橋新吉著,共和国),訳書にバックラック『ニューメキシコのD・H・ロレンス』(彩流社),ローズ『性の革命』(共訳,関西大学出版局),ラッツァラート『記号と機械』(共訳,共和国)などがある。

ギャリー・ジェノスコ氏来日! カルチュラル・タイフーン2018

#1 6/23 SAT.13:00-15:30

メインシンポジウム「情動化する社会の政治・経済・文化:グローバル資本主義に未来はあるか?」

[司会] 杉村昌昭 [パネリスト] ギャリー・ジェノスコ, ジョディ・ディーン, 村澤真保呂, 伊藤守

#2 6/24 SUN.17:15-

ワークショップ「資本主義, メディア, ポピュリズム:フェリックス・ガタリ思想の現代性」

[講演] ギャリー・ジェノスコ

[会場] 龍谷大学大宮学舎

[参加費] 学生1,000円/一般3,000円

[主催] カルチュラル・スタディーズ学会, カルチュラル・タイフーン2018大会委員会

一般財団法人
法政大学出版局

Hosei University Press

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
3-2-3 Kudankita, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0073

Tel. 03-5214-5540 | Fax. 03-5214-5542

Mail:sales@h-up.com

http://www.h-up.com/

フェリックス・ガタリ ()冊

定価(本体3,500円+税)/四六判/上製/352ページ
ISBN978-4-588-01080-4 C1310

ご芳名

ご連絡

帖合・番線